

献立で木城盛り上げ

連携協定1年、成果報告

南九大

食や農、教育を通じた地域活性について包括的連携協定を結んでいる木城町と南九州大寺原典彦学長の事業成果報告会は5月27日、木城町総合交流センター「リパリス」であった。関係者ら約100人

が参加し、同大学管理栄養学科の教授らがスポーツ選手や高齢者向けの献立の開発など、昨年の協定締結から1年間の成果を発表。共同開発した特産品の試作品も披露した。六車三治男元教授は、スキムミルクと大豆を原料にし



木城ミルキーみそやそば粉を使った試作品を試食する参加者

て、町産の米こうじを使い発酵させた新しいタイプの発酵調味料「木城ミルキーみそ」の開発経過を報告。長年の研究結果の説明を交えながら「筋肉ですぐに代謝されるアミノ酸やカルシウムなどを従来のみそよりも多く含み、

血圧上昇抑制や老化防止などの効果が期待できる」と特長を述べた。杉尾直子教授は、町内の宿泊施設「いしかわうち」で提供するスポーツ合宿者向け献立を紹介。昨年末のモニター合宿の様子や同大学生によるメニュー開発の経緯を述べ

た。「種目や年代、消費エネルギー量を考慮して献立を考えた。若年のうちからスポーツ選手の食への意識を高め、独自の献立で合宿誘致へつなげたい」とした。ほかに「宮るみ子元准教授

児童迅速に引き渡し

木城小 風水害想定し初訓練

■ 地域防災 ■

木城小(岩崎文彰校長、299人)は5月28日、風水害発生時に備えた児童の引き渡し訓練を初めて行った。授業

などから身を守るために必要なこととして「どこが、いつ危ないかを知り、発生時にどうすれば良いかを確認しておくことが大切」と伝えた。

講師後は引き渡し訓練を実施。保護者が各教室へ児童を迎えに行き、一人一人サインをしてから引き渡す下校手順を確認した。

同町椎木の松元喜子さん(35)は「親にも子どもにも良い経験になった。実際の災害を考えると車の移動や混雑など不安なこともある。防災への意識を高めたい」と話して

永友さん(都農) 優等賞

児湯郡市畜連子牛品評会

児湯郡市畜連の6月期子牛品評会は5月29日、新富町の児湯地域家畜市場であった。位などが優れて

農家の苦労わかった

都農南小 地元生産者と交流



児童に地元農業への理解を深めてもらうと、都農町・都農南小(児玉秀人校長、217人)は5月30日、農家のおじさんと語る会を同校で開いた。5年生43人が生産者さまさまな質問を行い、農家の仕事について学んだ。同校では4月に田植えを体験するなど、主に稲作につい

永友さん(都農) 優等賞

児湯郡市畜連子牛品評会

児湯郡市畜連の6月期子牛品評会は5月29日、新富町の児湯地域家畜市場であった。位などが優れて

演奏、野だてにぎわい

西都このはな館で催し

西都市の西都原ガイダンスセンターこのはな館で5月28日、このはな館まつりが初開

催された。ステージでの演奏、野だてなど多彩な催しが行われ、家族連れなど多くの中高生らでつくる西都オカリ

来場客でにぎわった。屋外の休憩棟であったステージコーナーは、女性デュオ「0930(オクサマ)」元メンバーの児玉美代さん(34)

西都市が司会を担当。トッパッターとして市内の小中高生らでつくる西都オカリ